



# 梅島小だより

## 竹のような強さとしなやかさを

校長 江原 敦史

竹にはフシがある。  
そのフシがあるからこそ、  
竹は雪にも負けない強さを持つのだ。  
(本田宗一郎)

竹は、強さとしなやかさをあわせ持つ類い稀な植物です。  
道具として利用されることが多いのも、その特徴からです。  
この強さとしなやかさがフシ（節）によってもたらされていることを、冒頭の本田宗一郎さんの言葉は述べていますが、本田宗一郎さんは、人間も同じだと言っています。  
別の言葉では、フシを「企業が儲からんとき」に例え、それがいかに大切かを述べています。



これは子どもにも当てはまることだと、私は感じました。  
子ども一人一人、その子なりの「節」を持っています。  
それは、学校行事や習い事の大きな場面であったり、子どもなりに乗り越えなければならない壁（局面）だったり様々です。  
いずれにしても、その「節」が子どもの心を強くしなやかにするのは、子どもが「節」に対していかに真剣に取り組んだかということだと思います。

「自分はこれだけがんばった」「自分はこんなに真剣に取り組めた」という実感が、あとで自信につながり、いざというときにふんばることができる力になるのだと思います。

この一年間で、子どもたちはいろいろな「節」をその子なりに作ってきました。  
その「節」を作ったという自信をこれからの生活で生かしてほしいと願います。  
私たち大人は、子どもが自分なりに「節」を作る過程を温かく見守り、楽をさせるのではなく、時には手を差し伸べながら壁を乗り越えるのを励ましていきたいと思っています。

この一年間で、保護者の皆様、地域の皆様から、ご理解・ご協力と温かい励ましのお言葉を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。